

がんや特殊疾患の  
早期治療を推進

人の生命に寄り添い、病気の治療と予防に立ち向かう福大医療と医療人のレポート



医学部 消化器内科学 教授  
福岡大学病院 消化器内科 診療部長  
平井 郁仁 先生

## 福岡大学病院 消化器内科

2000年4月に「第三内科」として開設。総勢30人の局員のうち、約半数が肝臓の専門医、残り半数が消化管の専門医。ラボスタッフとメディカルクラークのスタッフは合わせて約10人在籍する。病床数は45床。

Close-up

## 患者さんの人生に寄り添う仕事



平井先生が専門とする炎症性腸疾患には、代表的疾患として潰瘍性大腸炎とクローン病という二つの難治性疾患があります。いずれも以前は希少疾患でしたが、環境の変化などさまざまな要因により、ここ30年で患者数が約10倍と急増。若年で発症し、治療期間も長くなるため、必然的に進学や就職、結婚、出産など、人生の分岐点に立ち会うことになり、患者さんの数だけ治療の選択は異なります。数多くの患者さんを医師としてだけでなく一人の人間としても見守ってきた平井先生は、「患者さんとの信頼関係が、適切な診療を行う上で非常に大切」との思いに至ったそうです。

「“エビデンス”という言葉も、医学的な根拠といった意味だけでなく、患者さんと医師がきちんと信頼関係を築き、意思決定する、道筋作りの重要性も表しているのです」。患者さん一人一人に丁寧に寄り添いながら診療を積み重ねる姿はまさに、「あたたかい医療」を表現しています。



べき重要な任務です。特に炎症性腸疾患が原因となる炎症性発がんなど、発見が非常に困難な症例の診療は、知識や経験はもちろん、最新鋭の設備が充実している本科が担うべき使命だと考えています。本科には消化管専門の病理医がいるのも大きな強み。正確な診断を支えに、見つけ出すことが難しい症例にも対応しています」と平井先生。

希少な疾患の診断も然りです。「消化器には珍しい疾患が多く発症します。例えば小腸の細くなった箇所など、検査がしづらい場所に出血や腫瘍が発生した場合、特殊なカプセル内視鏡やダブルバルーン小腸内視鏡を使った検査や治療が必要。高度な機材が整った本科こそが担うべき役割です」。

他病院とも密に連携を取りながら、消化器系の予防・治療に全力で取り組みます。

食道、胃、大腸、肝臓がんといった腫瘍性疾患や炎症性腸疾患など、消化管と肝臓に関する全ての疾病の診療を行う、福岡大学病院消化器内科。消化管や肝臓など、より細分化した科を設ける病院も多い中で、本科では消化管グループと肝胆膵グループが「消化器内科」として統合し、包括的に診療していることが大きな特色です。

2019年4月に診療部長に就任した平井郁仁先生は、「消化器全体の診療を一つの科で完結させられることは、科ごとに移動するといった負担が少なく患者さんにとって、良い体制だと思います」と話します。

日常的な疾患や希少疾患、救急疾患を網羅的に診ることができるのも本科の特色。大量消化管出血や腸閉塞といった緊急性の高い患者さんも多く搬送され、本病院救命救急センターとも密接に連携しながら、幅広く診療に対応しています。

消化器外科のフォローが  
よりアグレッシブな治療を可能に

診療を行う上で平井先生は「外科のサポートがないと本科は成り立たない」と消化器外科との連携を強調します。週に1回、外科と合同で内視鏡のカンファレンスをはじめ、外科手術のカンファレンスにも内科メンバーが参加して、外科的視点を積極的に取り入れています。

日常的な疾患から希少疾患、  
緊急疾患まで消化器を包括的に診療

「外科とのディスカッションは非常に大切です。患者さんの年齢や体調などを踏まえ、その人にとってより負担の少ない、最善の治療が導き出せるからです。また日頃、顔を合わせてコミュニケーションを密に取り、厚い信頼関係を築いているからこそ、そのフォローを支えに、難易度が高くリスクを伴う腫瘍切除やバルーン拡張術にも積極的に臨めるのです」

今後は、こうした診療各科との連携をさらに進めていきたいと話す平井先生。「着任後、消化器内科に関係が深い小児科や神経内科、放射線科とは意識して連携を強めてきました。特に私の専門である炎症性腸疾患は、看護師、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床工学士などさまざまな人が関わる領域です。他科、他職種連携は、さらに推進していくべき今後の課題です」と言葉に熱が込められます。

最新鋭の設備と専門スタッフで  
難易度の高い疾患に立ち向かう

患者数の増加に伴い、外部の医療機関との連携も重要な課題です。福岡市城南区、南区、西区、中央区および糸島方面の医療従事者とは、年に2回症例報告会を実施。さらに本科主催の各疾患の研究会や講演会などを通して、ネットワークの強化を図っています。

「日本人の死因1位はがんで、その半数以上が消化器系のがん。他領域に比べて圧倒的にがんの発生率が高いため、早期発見に貢献することが、大学病院の果たす



週1回行われるカンファレンス



回診前にスタッフ全員で情報を共有